

\*そろそろ秋の気配を感じたいのですが。。。 コロナの状況もとても心配です。。

////// I N D E X //////////////////////////////////////

- ・ ISO 情報……………ISO14068(カーボンニュートラルリティ)の削減貢献量  
ISO14030-3(タクソノミー)と ISO/TC322(サステナブルファイナンス)
- ・ LCAF からお知らせ…LCA 無料相談室を9月9日(木)12:30に開室します。  
初級検定:8月21日(土)のご報告
- ・ 編集後記……………毎晩 ISO の会合があります。  
コロナと暑さのダブルパンチですね。

■■ ISO 情報 ISO14068 (カーボンニュートラルリティ) ■■ —————

8月23日(月)~8月27日(金)の夜にISO14068(カーボンニュートラルリティ)のワーキンググループ会合がオンラインで行われました。5月に配布されたWD2(2回目のワーキングドラフト)について、各国から参加しているエキスパートから出されたコメントを検討して、このドラフトを書き換える作業です。日本から出した62のコメントを含めて、全部で1,818のコメントがありました。コメントの数が多いため、多数のコメントが寄せられた曖昧だった部分の議論を最初にする事になりました。

まず、カーボンニュートラルリティの定義でかなり長い時間が使われました。最も厳密に考えている人は、排出(emission)と除去(removal)が等しく、大気中のGHGの量が変化しないことと考えています。この人たちは、オフセットは他所で削減されたクレジットを購入するだけで、自社でどうしても減らす(reduction)ことができないGHGが排出されているのだからカーボンニュートラルリティではないと言います。しかし、大部分の人は、オフセットも含めてカーボンニュートラルリティが達成できると考えています。

こういう議論の中で「削減貢献量(Avoided Emission)」は、従来製品と比較しての「削減量」なので、実際にはまだ「排出」があるし、それをオフセットしてもいないので、カーボンニュートラルリティを達成するための活動として認められないという論調になってしまいます。これに対し日本(稲葉)は企業がイノベティブな技術を作ろうとする取り組みを支援する必要があることから削除することに反対し、少なくともAnnexで取り扱う必要があることを主張しました。しかし、全般的に削減貢献量を扱うことに対する支持は薄く、Annexも削除し、Introductionで説明することになりました。

この議論の流れの中で気づいたのは、他社製品と比較することに強く反対する人たちがいることです。削減貢献量は他社製品との直接的な比較ではなく、市場での平均的(代表的)製品などベースラインの設定の仕方を工夫することが経済産業省が2018年に発行したガイドラインや、2015年に発行された日本LCA学会のガイドライン、ならびに世界の化学産業の団体であるICCAのガイドラインにも書かれているのですが、それでも「比較主張」にあたると思っている人たちがいます。比較主張を避ける最も簡単な方法は、自社の旧製品と比べることです。これはカーボンフットプリントの規格であるISO14067:2018にも、明確に「Performance tracking」として認められていますので、削減貢献量にはこの「Performance tracking」を使うべきという人もいます。このSCOPE3の削減量を、自社の削減(reduction)として認められるかどうかは今後の議論になります。

結局、全部のコメントを処理することができなかったため、11月11日(月)と12日(火)に残りのコメントを検討することになりました。また、今回の議論を考慮して、用語の定義の文書を起草する小グループと、企業がカーボンニュートラルリティの計画を立て実施することをどのようにマネジメントするかを起草する小グループが設立されました。11月の会合で新しいドラフトができると思います。それへのコメント募集が12月から1月に行われます。今後の活動も注視したいと思います。

■■ ISO 情報 ISO14030-3(タクソノミー)と ISO/TC322(サステナブルファイナンス)■■ —  
ISO/TC207/SC4 で作成中の ISO14030 (グリーンボンド) は 4 部構成になっています。ISO

14030-1:2021(第1部:グリーンボンドの手順)、ISO 14030-2:2021(第2部:グリーンローンの手順)及びISO 14030-4(第4部:検証プログラムの要求事項)は、来月(2021年9月)に発行になる見通しです。残りのISO/DIS 14030-3(第3部:タクソノミー)は、グリーン製品であることを規定する欧州の基準(タクソノミー)がそのまま記載されていたので、規格の発行の最終段階であるDISが昨年否決されました。その後、それらを除外する形でドラフトが書き直され、9月上旬を締め切りとして再度投票にかけています。産業界の委員が反対しない程度の書き直しがなされたので、日本も賛成投票をするとのこと。ここまではTC207の国内委員会の情報です。

タクソノミーについて心配なのは、7月に行われたISO/TC322(サステナブルファイナンス)のワークショップで、中国の代表が欧州と中国のタクソノミーの調和を考えたいと発言していることです。TC322(サステナブルファイナンス)は、2018年に設立されました。現在は、ISO32210(投資や資金調達活動のための包括的な持続可能性の原則、慣行、用語の適用に関するガイダンスを金融セクターに提供する規格)をTC207/SC4と共同で開発中(CD)です。私は、最近の金融セクターへ環境側面を要求する規格の動向に注意するために、7月29日に行われたワークショップを聴講しました。そこで中国のDr.Ma Junが上述のタクソノミーの共通化に言及しています。彼は、G20のSustainable Finance Working groupの共同議長だということです。ISOはもともと各国の政策が反映されやすい場ですが、これほど直接的に政策が入ってくることはなかったと思います。各国の政策との関わりに今後さらに注意することが必要だと思います。

#### ■■ LCAF からのお知らせ ■■

○LCAF「第3回LCAオンライン無料相談室」を9月9日(木)12:30~13:30に開室します。お昼休みです。お気軽にご参加ください。

URL

: <https://us02web.zoom.us/j/86421652915?pwd=Unc3NzIYQ2VwYmFQdkNXbFp3VGNIQT09>  
ミーティングID: 864 2165 2915

前もってご質問をメールで頂ければ回答を準備しておきますが、当日のご質問にも時間がある限り対応します。

○LCAF「LCA初級検定」を8月21日(土)にオンラインで実施しました。6名の方が受験し、全員合格でした。試験問題と解答を公開予定です。LCAの知識を確認する機会としてご利用ください。

#### ■■ 編集後記 ■■

○8月18日の週は火・水・木とISO/TC207/WG14(輸送)、8月23日の週は月~金の毎晩ISO/TC207/SC7/WG15(カーボンニュートラリティ)に参加しました。今週(8月30日の週)は月~木にISO/TC207/SC5/WG15(ソーシャルLCA)に参加しています。しかも、先週(8月23日の週)は、TC323とTC207/SC5の共同で作業が進んでいるJWG14(二次材料)と重なっていて、今週は8月18日の週に参加したISO/TC207/WG14(輸送)と重なっているため、これら並行して行われている会合には参加できません。こころ苦しいですが、他の委員及び日本事務局に参加をお願いしています。なぜこの時期にこんなに会合が重なるのか??? 答えは簡単。ヨーロッパの人たちの夏休みが終わり、夏休み明けの作業が集中したからです(と、思っています)。

私が参加しているISOのグループのメンバーの中には、某SNSでつながっている人も多いのですが、スウェーデンからイタリアへ、ドイツからイタリアへの大旅行を報告しています。英国の国内旅行の様子もあります。ヨーロッパはもうほとんど旅行が解禁のようですね。次の海外通信で海外の友人に夏休みの状況を聞いてみたいと思います。

JWG14(二次材料)とWG15(ソーシャルLCA)の進捗は、次号以降に報告します。

○コロナの第5波がすごい勢いですね。私は2回目のワクチン接種も終わりました。池袋の事務所郵便を取りに行かなければならないのですが、コロナがひどいので、もっと正直に言うと、この暑さで出てゆく気がなくて困っています。それと。。。自宅で仕事するのが習慣になると、外に出るのがほんとうに億劫ですね。週日と土日の区別もつかなくなってきました。正直に言うと、パソコンの前で、チョコレートをほおぼりながら、一日中パジャマで仕事、リモート会議の時に上着だけ着替え。。。という日もあります。困ったものですね。。。皆さんはどうされているのでしょうか???

(LCAF 理事長 稲葉 敦)

-----  
ご意見,ご感想,本メールマガジンの解除のご連絡はこちらまで  
lcaf-contact@lcaf.or.jp

-----  
一般社団法人 日本 LCA 推進機構  
Japan Life Cycle Assessment Facilitation Centre (LCAF)  
(エルカフと呼んで(読んで)ください)  
〒71-0014 東京都豊島区池袋 2-36-1  
インフィニティ池袋 8F52  
電子メール : lcaf-contact@lcaf.or.jp  
URL:<https://lcaf.or.jp/>